

# 暑い瞳

うるま市立  
平敷屋小学校  
幼稚園  
発行  
校長  
高良孝志

## あの日を忘れない

平成23年3月11日  
午後2時46分に大きな地震が発生しました。

その日は電車も止まって、家に帰れない人もたくさんいました。

この日、日本の東  
北地方では、地震の  
ほかに大きな津波が  
起きていました。津  
波による死者行方不明者は1万8千人以上。津波は、一瞬にして家も車も道路も

学校も、すべてを流していきましました。体育館の上まで水がきて天井近くに浮いてしまい、天井にわずかに残った隙間に顔をあてて、その空気を吸って助かったという人もいます。東北の3月は雪が降つてとても寒いのです。その寒さのなか、一晩中水に浸かって、意識が遠のくの必死でこらえながら生きぬいたので。目

の前でお母さんが流されたり、自分の弟や妹が流されたり、友だちが流されたりしたのを見た子もいます。わが子を助けられなかったお父さんやお母さんは、どんなにかつらかつらでしよう。年を取っている人を助けようとした消防団のお兄さんが亡くなったりもしました。村長さんは、自分の奥さんと娘さんが死んでしまったときも、村の人を守るために仕事をしただけで聞いていま

す。皆に避難を呼びかけ続け、自分は逃げ切れず放送室で津波にのみ込まれて亡くなったお姉さんもいます。  
この大地震と津波、そして原子力発電所の事故は、美しく豊かな日本の国を大きく変えてしまいました。これが自然の力なのです。人間など何もできません。  
また、以前のようにな美しく豊かな日本の国にするために、私たちは何ができるのでしょうか。  
まず、このことを忘れないことです。大人になっても自分の子どもにきちんと話していかねばなりません。そして、自

然を大事にして暮らすことが大切なのです。  
皆さんは、今こうして生きていることの幸せをきちんと受けとめて、生きられなかった子どもたちの分も、勉強して、成長して、日本の国

## バトンをつなぐ

三月は、リレーのバトンゾーンです。6年生が5年生にバトンを渡すのです。バトンを落としても心配いりません。拾って渡し直せばいいのです。

6年生はこれまで平敷屋小のリーダーの役割を見事にやり遂げました。バトンは重かったかもしれない。バトンを持つので、走りにくかったかもしれない。しかし、本当によくやってくれました。

5年生は、このバトンを引き継ぎます。もしかしたら、6年生のように速くは走れないかもしれない。

でも、みなさんなら大丈夫です。バトンをしっかりと受け取り、そして、次につなぐのです。

平敷屋小は、このようにして69年間バトンをつないできたのです。これまで新潟小のバトンをつないでくれた6年生、ありがとう。これからバトンをつなぐ5年生、よろしく。

## 卒業生へ

皆さんにとって大切なものは何ですか。

毎日の学校生活で大切にしていたもの、そして、これからの学校生活で大切にしたいと思っっているものがありますか。卒業する皆さんに、これから考えてほしいことについて書いてみます。

心身ともに成長を続ける皆さんにとって、自分のほかに他人がいてることを理解することは大切だと思います。人間は社会的な動物であるといわれるように、一人では生きていけないのです。

だから、道徳があり、社会のルールがあり、人に対する思いやりの心をもつことが、人間らしさの基本であるといわれるのです。皆さんは成長するに従って、家族・友だち・その他の人から刺激

を受けて、社会のなかでは自分ができるように行動するのが正しいのかを学んでいきます。  
こうして、判断力が養われ、自分のなすべき役割を知り、責任感も育っていくのです。そのとき基礎となるものは、思いやりの心でなければなりません。

自分の勝手気ままに振る舞ってはいけないことを理解することによって、人間は自立の第一歩を踏み出すのです。

思いやりとは、自分の身に比べて他人の身について思うことです。自分のほかに、多くの人々がこの社会で生きています。皆さんには、やさしさを行動に表せる人間の住む社会をつくるべく、よく人になつてほしいと願っています。

皆さんは、今こうして生きていることの幸せをきちんと受けとめて、生きられなかった子どもたちの分も、勉強して、成長して、日本の国

## 自転車の乗り方

平敷屋小ではありませんが、自転車による交通事故の記事が新聞に載っています。自転車で乗っている人が事故にあつたのではなく、人にぶつかり死なせてしまふという悲しい内容でした。

乗っていた人はスマホを操作していたということですが、これからこのような事故が増えていかなければいけません。遊びに出かけるときや、友達のうちに行くとき、子どもセンターに行くときなど自転車に乗るときも多々あります。事故にあわないように、また、事故を起こさないように、気を付けてください。



参考文献「教職研修」より